

公民館等の防災・減災教育機能強化事業

「避難所運営セミナー 全体会」

平成30年6月15日(金) 青森県総合社会教育センター 第一研修室 受講者69名

当センターでは、公民館等が災害時に避難所になることが多いことを受け、避難所開設に関わるスキルアップをめざしながら、地域住民参加による自主防災組織などの協力体制の構築と「小さな拠点づくり」に寄与する公共施設としての役割を担えるよう支援することによって、公民館を中心とした地域づくりに資するために、「公民館等の防災・減災教育機能強化事業 避難所運営セミナー」を開催しています。青森県公民館連絡協議会から後援していただいている事業です。

これから開催する**各会場セミナー**では、「避難所運営ゲーム（HUG）」（静岡県が開発した、避難所運営を机上で疑似体験できるゲーム）を活用し、実践的な訓練を行います。

これに先立って、**6月15日(金)に全体会**を開催し、**災害に対する心構えや対応の在り方などを学びました**。公民館等の職員を中心に町内会防災部会役員や自主防災組織を運営する方、学校などの施設の職員、社会福祉協議会の方など69名が受講しました。

★講演「来るべき災害に向けた公民館の役割 ～日頃の備えから避難所運営まで～」

全体会では、青森県防災アドバイザー（山口大学大学院 創成科学研究科 准教授、消防庁 消防大学校 客員教授） **瀧本 浩一 氏**をお迎えし、御講演いただきました。



災害への向き合い方

- ・災害被害の**想定**すること（病気に例えれば、病気を知ること）
- ・想定をもとに被害発生を**予防**し、抑止すること（例えれば、予防接種を受けること）
- ・被害への応急**対応**と早期**復旧**（例えれば、病院にいき、治療すること）

避難所運営はこの最後の部分である。だから、避難所運営の前提としてこれ以前の部分をクリアできていなければならない。

避難所運営までの道のり

別の視点から言うと、「施設設備の充実と強化」「資機材確保、防災用品備蓄」**「職員・スタッフおよびその家族の備えの実行」**の上に、「繰り返し行う机上および実動訓練や研修」（「運営方法の検討」「地域・他機関との連携検討」「運営方法の確立」）の改善があって、これらを土台として初めて災害発生時の避難所運営が可能になる。

「自助」と「共助」と「公助」の位置づけ

ところが、ここに地域防災の問題がある。地域の災害対応・行政の対応という「公助」は、「共助」（「消防団活動」「自主防災組織」「行政内外連携」）によって成り立つ。その「共助」は消防団員個人、住民個人、行政職員個人がそれぞれ助かって、活動を開始することが前提である。「自助」がなければ「共助」はなく、「共助」がなければ「公助」も機能しない。つまり、**個人個人(特に行政職員)が自分や家族とともにしっかりと災害に備え、切り抜ける「自助」が大変重要となる。多くの事例ではこの「自助」が考慮されてこなかった。**このために「共助」「公助」の動きが遅れ、連鎖的に復旧・復興が遅れた事例が多い。

災害の前は、災害の想定をもとに「公助」「共助」「自助」の順で意識を高め対応を検討して予防に努めていき、いざ災害となったら「自助」「共助」「公助」の順で対応していくべきである。「自助」には、自分自身や家族のことだけでなく、避難所になる公民館の耐震準備なども含まれる。

予防・抑止は、最悪の災害の想定を把握するところから始まる。それに向けて、耐震補強や防災関連器具などを

準備することとともに、家族と話し合っておく必要がある。

避難所運営にむけて

過去の事例から得られる避難所運営上の課題は、「居食什」（居所、水や食料、什器類の確保）「レイアウト」などたくさんある。特に問題となるのは、「女性への犯罪」（暴力、痴漢行為他）である。**運営には女性に参加してもらい、女性や子どもに配慮した避難所の環境づくり**をしなければならない。

また、普段の公民館講座による防災の啓発も可能である。「パソコン・スマホ講座で気象情報、防災情報の取得方法の習得」（情報の収集方法の習得）、「男の料理教室」（だれでも料理を作れるように）、「健康づくり、生き生き体操」（避難所での健康維持に）、「英会話」（外国人被災者への対応）なども考えられる。

まとめとして

これまで災害への対応方法は、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災などから学んで多くの地域で改善されてきたが、経験が生かされず備えのない地域もあった。また、既存のマニュアルを鵜呑みにしないこと（自分たちの実情を踏まえる）、過去の災害対応を鵜呑みにしないこと（その対応は、窮余の策であるかもしれない）、マニュアルを充実させ訓練を実施していても本番ではうまくいかないことがあることを考える必要がある。

災害予防の心得は『居安思危(きょあんしき) 思即有備(しそくゆうび) 有備無患(ゆうびむかん)』（【意識】平和な今だからこそどんな問題が起こるか考えておく そうすることが備えにつながる 備えがあると災害が来ても ^{うれ}患いはない ～中国の歴史書「春秋」より）であるが、忙しいのでなかなかできない。**まずは、ご自身の命の「居安思危」、家族の「居安思危」、その上で避難所の「居安思危」、避難者の「居安思危」へと進めていただきたい。**そして**災害対応の心得は『慎始敬終(しんしけいしゅう)』**（【意識】最初から最後まで首尾一貫、気を抜くな ～中国の歴史書「礼記」より）。避難所を立ち上げてから閉じる瞬間まで絶対気を抜かないでいただきたい。

最後に一言。まずは**皆さんの自助を進めていただきたい。**命があれば、避難所を開設・運営することができる。そして、これからHUGなどでたくさん経験を積んで、県民のためにお力をいただければと思います。

～～～アンケートより～～～

- ・ 安心、安全に生活している、出来ている今だからこそ、いろいろ備えが必要で、「もしも」に備えることが大事だと改めて考えさせられました。
- ・ 職場で無事であること、家で家族とともに被災しないこと、自分の命の大切さが一番だということ、それがあってからこそ、他の人たちを助けることができるということを学びました。
- ・ 自分の（勤務する）学校の周りの課題、連携すべき対象のことについて、よく分かっていないことに改めて気付きました。このままでは、有事に対応できないと思いました。今までやっている避難訓練だけでなく、一歩進めた内容を考えないといけないと思いました。
- ・ 講師の瀧本先生の熱い思いが伝わってきました。

今後、下記の日程で避難所運営ゲーム（HUG）を活用した各会場セミナーを開催していきます。事前のお申込みでどこへでも参加できます。ぜひ御参加ください。（お申し込みは、青森県総合社会教育センター 育成研修課へ）

| | | | |
|---------|------------------|----------|--------------------|
| 6/28(木) | 八戸市(八戸市総合福祉会館) | 9/19(水) | 五所川原市(五所川原市中央公民館) |
| 7/4(水) | 鱈ヶ沢町(鱈ヶ沢町中央公民館) | 10/30(火) | おいらせ町(おいらせ町みなくる館) |
| 7/18(水) | 弘前市(弘前市民会館) | 11/8(木) | 野辺地町(野辺地町中央公民館) |
| 8/23(木) | 大間町(大間町総合開発センター) | 11/15(木) | 三戸町(三戸町中央公民館) |
| 9/6(木) | むつ市(むつ合同庁舎旧館) | 12/6(木) | 青森市(青森県総合社会教育センター) |
| 9/13(木) | 今別町(今別町開発センター) | | |

どの会場でも、13:00～16:00 参加費無料